

学力を伸ばす! 「夢・絆・感謝」でキラリの南中 ~一生懸命がかったい~

学校教育目標

み 自ら学び
な 仲間と光り
み 未来に鍛える



みなみ風

昭和22年(1947年)開校 創立76年目

南中学校だより「3月号」 令和5年3月1日(水)

想いを寄せ

校長 小堺 正之

昨日からの春の暖かな空気を味わいながら、今朝も南中生が元気に登校してきました。2月中旬には、正門近くの梅の木にもたくさん白梅が咲き誇り、校舎内にも一枝おずそ分けをいただきました。

この時期になると、毎年「思いのまま」という梅の鉢植えを思い出します。私が教員になって3年目の昭和62年の今頃に、県立小川高等学校の教員として勤務する大学時代の友人と久しぶりに会うことになり、「わりと近くに越生の梅林があって『梅まつり』をやっているから見に来ない?」と誘われて行ってみました。たくさんの梅の花が咲く中、いろいろな物も売っていましたが、ふと一鉢の梅の木に目が留まりました。その「思いのまま」という名前の鉢植えには一本の梅の木が植わっており、一本の木のはずなのに、なんと紅白両方の梅の花をつけていました。担任として初めての卒業生を送り出す私は、公立の受検を終えたばかりの、そしてもうすぐ卒業していく生徒たちの顔が思い浮かび、合格祈願と卒業後の人生が「思いのまま」になるようにとの願いを込めてそれを買って帰り、教室にずっと置いておきました。生徒たちも水やりをしながらどんどん紅白の花が咲くのを日々眺めていました。残念ながら、全員が思いのままにはなりませんでしたが、数日後には大きな希望をもって卒業していってくれたと思います。

さて、南中第76期卒業生となる3年生も先週、千葉県や埼玉県の公立高等学校の受検を終え、3月3日の発表をドキドキしながら待っていると思います。また、先週の金曜日には3時間もかけて南中のために様々な奉仕作業も行ってくれましたし、昨日からは卒業式に向けた活動も始まり、南中に通うのも残り10日となりました。この1年間を振り返ると常に最高学年としての矜持を意識し、運動会、修学旅行や南中祭などの学校行事をはじめ、普段の学校生活でもそれを示してくれた皆さんでした。そんな皆さん一人一人に担任の先生をはじめとする3学年の先生や皆さんに関わったそれぞれの先生方も同じような気持ちで皆さんの合格に、卒業後の人生に想いを寄せてています。もちろん、皆さんのご家族もです。私自身は、高校入試で大きな挫折を味わいましたが、それがすごく良い経験となり、その後の人生に生きていると心から思っています。結果だけに一喜一憂するだけでなく、喜びの気持ちも辛い気持ちもすぐに切り替え、これから的人生にまっすぐに目を向けて力強く進んでくれることを願っています。きっと、卒業式でも「これぞ南中を卒業していく姿」となるものを残していくと期待していますし、それを後輩である1・2年生がしっかりと受け止めてくれるはずです。残念ながら1年生は参列できませんが、後日その様子を見てもらいたいと思います。また、参列する2年生の皆さんは、所作と雰囲気で卒業式全体をしっかりと支えてくれることと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましても159名の第76回卒業生に多くの想いをお寄せいただくとともに、卒業後も見守ってくださいますようお願いいたします。

プレゼンテーションコンテスト 校長会長賞受賞!



[3月・4月の予定]

完全下校時刻
3月…17:30

1	水	千葉県公立追検査
2	木	
3	金	コスモス学級校外学習 埼玉・千葉県公立入学許可 候補者発表 3年給食カット
4	土	P連理事会・会長会
5	日	
6	月	埼玉県公立追検査
7	火	3年生を送る会
8	水	埼玉県公立追検査発表
9	木	専門委員会 卒業式予行
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	3年給食終了 中央委員会
14	火	卒業式前日準備
15	水	第76回卒業証書授与式
16	木	生徒集会 ふれあいデー
17	金	保護者会 (1・2年) 給食終了 4時間授業
18	土	
19	日	
20	月	3時間授業
21	火	祝日 春分の日
22	水	3時間授業 市内班別行動 2年
23	木	大掃除
24	金	修了式
25	土	
26	日	
27	月	学年末休業日
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	心機転
4月		
7	金	準備登校
8	土	
9	日	
10	月	入学式・始業式
11	火	避難訓練
12	水	給食開始 4時間 総合健診 1年生

2組 小櫃 聖奈さん

当日会場へ行き、発表を見ていると不安や緊張で胸がいっぱいでした。発表は、今まで練習したこと全て出し切りとても良い発表でできたかなと思います。たくさんの知らない人の前で発表することは、焦りや緊張があるけれど、良い経験となり、人の発表を見て新しい発見や、こんな発表の仕方があるのかということが勉強になりました。私たちの発表はまだまだかなと思いましたが、それぞれの個性を発揮できれば良いプレゼンになるかなと思いました。

4組 吾妻 梨杏さん

何回も繰り返し練習していたが、しっかりできてよかったです。私はあまり身振り手振りをすることができなかつたので、小学校でもそれを行っている人が多数いたので、来年のプレゼンテーションでは、身振り手振りができるようにしたいです。

4組 原子 桜さん

なかなか時間が取れなかったけれど、隙間時間でスライドをつくり、セリフの練習をしました。入賞できてよかったです。次も参加したいです。ただ、次回は、自身の考察と具体的なデータをもっと増やして、深く狭く取り上げたいと思います。



学校図書館のおすすめ本



アメリカの高校に入学し、4人の友達とバンドを組んで演奏に友情に充実した毎日を送ったナナ。5人で卒業旅行をする約束をして、日本の大学に通うため帰国する。ところがある事件が起り、その約束は果たされなかった。一緒に青春を過ごしたメンバーはバラバラになり、変わってしまった。ナナは約束を果たすために再びアメリカに渡るけれど——喪失と再生の物語です。

新入生説明会 2/15(水)

入学してくる約 160 名の児童と保護者に来校していただき、入学までのことや入学してからのことをお伝えしました。本校では中学生が司会や受付を行い、学校の説明やスマートフォンの使い方などを生徒目線で説明していました。



最後の期末テスト 2/6(月)・7(火)

3年生にとっては中学校生活最後の期末テストでした。2月 21 日からの千葉・22 日からの埼玉県公立高校の入試に 3 年生 111 名が挑みました。



全学調「話すこと」テスト 2/17(金)

来年度実施される全国学力・学習状況調査の英語の中での「話すこと」のプレテストを行いました。実際全員がうまくできたわけではないのですが、できなかつたデータが全国の生徒に生かされていきます。



プレゼンテーションコンテスト 2/14(火)

鷹野文化センターで、これから時代をよりよく生きるために力を育むために開催されました。本校からは、2 年生 3 名がチームを組んで参加しました。昨年末から制作、発表練習を積み重ね素晴らしい発表を披露してくれ、今年も校長会長賞をいただきました。おめでとうございます！



3年生の奉仕作業に感謝 2/24(金)

3 年生の中で公立高校の 2 日目の検査がなかつた生徒たちが学校の大掃除をしてくれました。大型の廃棄物を 1 か所に集めてくれ、大感謝です。



令和4年度 学校評価報告書 三郷市立南中学校

評議 項目	No.	質問項目	学校自己 評価結果	学校関係 者評価 結果	学校自己評価についての 評価の説明及び学校の考え方
教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.19	3.00	前年比-0.18 学校教育目標(自ら学び(な)仲間と協力(とも)して成長(せいこう)する)を具現化するために今年度の教訓を阼(むすび)き継続(けいじく)する「ぶるをばくすこにし」として、学力と成長(せいこう)をつなげて、神農スローガンである[「よいクラス」「よい授業」「よい家庭学習」]については、昨年の発表も引き継ぎ実践している。
組織運営等の状況	2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の經營にあたっている。	3.07		前年比-0.15 離職会議で実施される諸行事についての計画・実行・評価・改善検討はPDCAサイクルとして機能している。行事等を成功させる毎年回答でも具体的な活動の計画実施ができる。PDCAサイクルのもと、経営にあたることができた。
特色ある学校	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.19		前年比-0.33 今年度の重点は「学ぶ力を伸ばす」ことと、学力と成長(せいこう)をつなげて、神農スローガン(「よいクラス」「よい授業」「よい家庭学習」)の実現をめざし、学力向上3部会で前年の取組と仲間を継続する活動を実施。特色ある学校づくりの一つとしての生徒の学ぶ力の向上が見られた。さらにしあわせな楽しさを味わおせたい。
質実向上	4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.19	3.00	前年比-0.0 運営委員会、学力向上部会、学年会、教科会は、昨年度同様に機能する体制ができた。特に、将来を見据えた学力を育むために授業力向上に力を入れ、充実した授業展開を構築できた。
学力向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.41		前年比-0.22 署員会議後に必ず倫理確立委員会を実施し、新聞記事等からも資料提供をし、信頼維持や事故防止の研修を行った。また、県の体罰禁止リーフレットを配り、3つの責任を確認し、不祥事を出し、職場づくりにして研修と課題を行った。
授業等の状況	6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.63		前年比-0.15 学期ごとに研修計画を立て、授業公開や教員が必ず1回以上の研究授業を実施し、研修に取り組んだ。今後も、教員同士の「相互授業参観」等も、計画的、組織的に取り組み、教職員の指導力向上に努める。
授業規律	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で新しい学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.33		前年比-0.30 校内研修を行い、教科会等で教科内の連携を進めめた。コロナ禍による制限内の試行で、あがたが、自分の教科の余地を埋めていく授業研修ができた。教員は全国一県学力学習状況調査結果を分析し、生徒の実態に基づき授業改善のヒントを抽出し、工夫に努めた。
授業のまち	8	学校は、日々の授業を通して、児童生徒に基礎的基本な学力を身につけさせている。	3.38		前年比-0.01 基礎的基本的な学力の定義が複数となっていたが、改訂の結果となる学ぶ力について夏目で、両義を用意している。今年度も学力向上を第一優先とし、授業評議会や、授業体系づくりなどの研修が学ぶ力を育む要因となっている。基礎学習の方法は、話し合い、教科会担当から、今日の家庭学習のメインの「読み書き家庭学習プリント」の配布など実施的に行い、基礎学力の定義に合わせて授業を進めた。
図書のまち	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.30		前年比-0.22 生徒指導会や学力向上3部会と連携し、全年度統一した授業規律や意欲的な学習態度の育成に努めた。「授業の心得」を進めた「南中スタイル」により、教師・生徒ともに意識の向上が図れた。
健康・体力	10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.59	4.00	前年比+0.03 1分前席講話を恒常的に実行し、落ち着いて始業のチャイムを迎えている。各授業でめでや懇親を明確化し、掲示するようした。また、終末には振り返りの時間を設定し、学びやすくわかりやすい授業に取り組んだ。
考え方の推進する	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.27	3.00	前年比-0.08 図書館司書、図書委員会の意識が高く、従事的な活動について意欲的に取り組み、真面目奇跡の増加に向かって力を入れた。また本年度も、図書館経営評議会を開いて、いろいろなキャンペーンを企画し、多くの生徒が来館するように工夫を重ねた。しかし、ならし、位置情報や検索等における人の数的制限等コロナ前の状況にはまだ差異がある。
働き方の改革する	12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.04	3.00	前年比-0.22 図書館としてイベントを開催するなど、来館者数をあげる取組をし、図書館の発行に合わせ、学級でも読書会を開くなど積極的な取り組みを行っている。その結果、星休みの図書館は爆発的に利用者数があつた。
指導・管理の状況	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.26		前年比-0.01 来年度春の運動会、秋の運動会等による食事指導や、実験料の実験への参加があった。そして、看護室からの生活動を中心とした規則正しい食事の大切さについて医師によりて医師など、食に関する意識の向上を図り、新食の大切さや食事のバランスの重要性の指導等が行われた。しかし、牛乳飲料や粒糖の多さが問題となっているので日常的にバランスの良い食事が、健康な体を作ることを指導していく。
生徒指導	14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.26	3.20	前年比-0.04 コロナ禍の活動休止期間を経て、生徒たちの体力向上をめざして取り組んでいた。しかし、牛乳飲料や粒糖の多さが問題となっており、運動会でもコロナ禍で活動制限を多つたが、目標を設定して、生徒が主体となって取り組めるよう各課間も工夫を凝らしている。
安心・安全	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.07		前年比-0.10 学年単位で道徳委員会で特別の意識運動を実施している。学年での指導や教材研究の時間が増え、教職員の道徳教育に対する意識が高まった。また、よりたくさんの目で一人の生徒の適性を見ることができている。果実教育も道徳委員会に参画して、話し合い角を設けて、生徒が主導で道徳教育を推進している。
教育環境	16	学校は、道徳教育全般を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心構え、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.08		前年比-0.02 学校全体を通して、生徒たちの心成長を向心に努め、自分のuluいや正直な気持ちを正しくしようと努力している。また相手の気持ちを考え、理解できない言葉や行動が見られる時に、人間関係づくりが苦労する生徒が多く、生徒同士のトラブルが見られる。道徳の授業を主として、行事・の取組、奉仕活動、雰囲気などにより、自然に大切にすることを心がけている必要がある。
家庭・地域との連携	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に對し規範意識を高める指導を行っている。	3.33		前年比-0.11 倫理確立委員会や朝のかけ等で、服装指導等の宿題に努め、教職員の規範意識の向上を図り、生徒の前でも手本となるようにしている。生徒は自己認識リーフletを実施し、全校統一して授業規律の徹底・全教員で行う道徳の授業などにより、「ダメなものダメ」をはじめとした規範意識を高める授業が日常生活の中で行われている。
生徒指導	18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるよう指導している。★	3.44	3.80	前年比-0.08 コロナ禍が少し緩和され、声を出してのあいさつが少なくなったが、握手等で実施した。授業開始、終了時のあいさつは実施しているが、廊下では実施していない。来校者は手洗いの手順等を教える。しかし、牛乳飲料や粒糖の多さが問題で困っている。担任からだけでなく、委員会活動や活動で指導することややめないと評議が実施的である。
安心・安全	19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.15		前年比-0.18 運営委員会と委員会で、生徒・教職員・業者との意見交換会に出席する。しかし、手洗いの手順等が未だない丁寧な言葉遣いを心がけるように正直に意見を述べる。授業感覚を図った。生徒の中には、若い者に対して、友達感覚で接しようとする生徒もいるので、導くにいたる者の選択ができるようにしている。また、教員と生徒との適切な距離感をねどることも重要なある。さらに、社会に出るための準備として、看護の受け分けを指導する。
教育環境	20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に對し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.41		前年比-0.07 運営委員会や朝のかけ等で、服装指導等の宿題に努め、教職員の規範意識の向上を図り、生徒の前でも手本となるようにしている。生徒は自己認識リーフletを実施し、全校統一して授業規律の徹底・全教員で行う道徳の授業などにより、「ダメなものダメ」をはじめとした規範意識を高める授業が日常生活の中で行われている。
生徒指導	21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.52		前年比-0.07 保護者・関係機関との連携を図り、協力して指導にあたっている。保護者・関係機関との連携を図り、協力して指導にあたっている。
安心・安全	22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.59	4.00	前年比-0.03 二者面談や心体の安全点検等のアーケードにより、いじめ問題行動の早期発見に努め、積極的に声掛けをしている。しかしながら人間関係のトラブルがゼロではない。今後は、より一層人権教育の推進、道徳教育の推進を図り、協力して、生徒の成長をめざすようになっていく。
教育環境	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示して対応している。登下校時の交通マナーを重视し、地域からの意見を生徒に伝え、全教員による下校指導法を実施した。自転車道に係る事故やトラブルゼロの実現を目指している。	3.37		前年比-0.04 事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示して対応している。登下校時の交通マナーには記載されているので、看護の実習等で、生徒から校内迷惑による安心・安全な教育環境づくりに取り組んでいる。
家庭・地域との連携	24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.11	2.80	前年比-0.04 毎月の安全点検や、日頃から校内迷惑による安心・安全な教育環境づくりに取り組んでいる。しかし、施設・設備等が老朽化し、修理保全箇所が残らない。すぐに直せるようなものは、事務主任や安全担当などに協力できる体制にしていて、
教育環境	25	学校は、清掃活動や揭示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.04	3.20	前年比-0.22 清掃指導は生徒と一緒に実行し、清掃後の反省会も工夫して、実施している。ただし、その方法には統一されていないので、看護が必要である。廊下や階段、教室等の掲示板には、学年やクラスの工夫が見られる。清掃の実習等で、生徒等が手洗いの手順等を教える。しかし、手洗いが少ない。新しく掲示がない。
家庭・地域との連携	26	学校は、教職員が児童生徒と向き合うため、働き方改革を進めている。	2.85		前年比-0.42 事務の情報化や授業のICTの積極的活用等で、増やすことで働き方改革は進んでいる。また、朝練習の時間を使いたことや時程表の弾力活用等で勤務時間の短縮が図れつつある。ただ、データのリンクができるようになるがさまで、働き方改革を進めるポイントとなる。
家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成績・課題等について情報を発信している。★	3.56	3.80	前年比-0.33 学校だよりは、生徒、教職員、PTA、学校区組織の取組や活動など、多くの写真と共にわかりやすくするよう工夫して作成した。HPはほぼ毎日更新しており、生徒の活動の様子はもとより、学校の色々な取組を紹介している。保護者や地域の方からの学校だよりやHPに関するコメントやお問い合わせが伸びてきている。
家庭・地域との連携	28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校支援団の活用を図っている。★	2.78	3.00	前年比-0.18 保護者からの連絡では、通知や配信メールを通して、生徒、保護者に迅速に情報を伝えることができた。また、看護の実習等で、生徒から校内迷惑による安心・安全な教育環境づくりに取り組んでいた。
家庭・地域との連携	29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.11	3.00	前年比-0.08 コロナ禍の制限実施となつたが、貴重な収集ははじめとした生徒・保護者・地域の方との交流活動は協力してきていた。そんな中で、今年度も中止となる「地域みんなでシンポジウム」やPTAには学校に選出する方法を考えていただき、南中フェスを企画・実施することができた。それにより生徒とともに地域とも交流ができた。